



首 藤 保之助

父は、保之助が教師として東京に住んでいた大正三年に稲田村に、分家として出しましたが、保之助はつぎの年に、石川郡泉村（玉川村）の首藤カクと結婚し、「首藤保之助」と名前を変えました。

保之助は学生時代から考古学にきょうみをもっていました。熱心さのあまり、食から、古い土器や石器を集めるのにむ中になりました。熱心さのあまり、食べるものも食わず収入のほとんどを、それにつぎこんだため、食事といえはとうふやおからだけというありさまでした。せけんからは、かわり者と言われ、つき合う人も、あまりいなくなりました。カクの両親は、娘がたいへんな人と結婚してしまったとなげいたそうです。